

平成29年度 第2回小平市子ども・子育て審議会 会議要録

と き：平成29年9月13日（水）午後1時30分から3時15分まで

ところ：小平市役所6階 大会議室A

1 出席者等

子ども・子育て審議会委員・・・・・・・・13人（欠席3人）

傍聴者・・・・・・・・3人

2 配付資料

小平市子ども・子育て支援事業計画《平成28年度推進状況》

「小平市子ども・若者計画」の基本的な考え方

小規模保育事業の新設について

3 内容

議事

- (1) 小平市子ども・子育て支援事業計画《平成28年度推進状況》について
- (2) 小平市子ども・若者計画の策定について
- (3) 小規模保育事業の新設について
- (4) その他

3 上記内容についての意見・質疑応答

- (1) 小平市子ども・子育て支援事業計画《平成28年度推進状況》について

委 員 子育て短期支援事業（子どもショートステイ事業）を障がい児が利用する場合、障がい者支援課を通して申込みことになるのだろうか。保護者の疾病など、緊急で利用が必要になった場合でも、受給証明書の入手などの手続きに時間がかかってしまい、すぐに利用できないのではないか。

事務局 障がい児を対象とした事業ではないが、相談があれば他の施設や何らかの代替サービスを紹介するよう努めている。また、年末年始を除いて開所はしているが、3市による共同運営の形をとっており、施設側の受入れ体制など調整が必要となるため、当日申込みでご利用いただくのは難しい状況である。

事務局 障がい福祉サービスの中に、障がい児を対象とした短期入所（ショートステイ）というサービスがあり、愛の手帳を持っている場合や療育の必要性が認められる場合に利用できる。障がい者支援課に相談し、サービス等利用計画を提出し

た上で支給決定を受けた人が利用できる制度となっているため、当日利用を希望してすぐに利用できるものではない。

委 員 乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）の訪問実施率が96%とあり、残りの4%に対しては健診や電話で対応しているということだが、その結果として全家庭へ接触できているのか。

事務局 保健師や助産師が連絡を取っても各家庭の諸事情により会うことを避ける保護者もいるため、100%には達していない。ゆりかご・こだいら事業で全妊婦と面談する機会を活かし、乳児家庭全戸訪問事業に繋げ、100%を目標に努めたい。

委 員 緊急一時保育を利用した際に、保育課と保育園が迅速に対応してくれたためスムーズに利用できた。保育園での一時預かりを利用した際も保育園の先生方があたたかく対応してくれた。一方で、一時預かりの予約方法は複雑で不安定なものに感じる。予約開始の時間に電話しても繋がりにくく、繋がったときには既にキャンセル待ちということがある。また、混んでいる保育園は事前登録のための面接の予約もなかなかできず、一時預かりを利用するまでの手続き・申込みにも数か月かかることがあった。計画上の確保数には達しているが、利用したい日に利用できるようにしてほしい。

事務局 一時預かりの実施園は年々増えており、28年度は花小金井保育園の定員を2人増やし、東部地区の新設保育園でも開始した。実際の利用状況としては、全体の利用者数は何百人という単位で増えている一方、園によっては利用率が下がり、利用者が減少している地域もある。市内全域では計画に沿った定員を確保できているが、地域によって利用状況に差が生じており、各地域でのニーズとのマッチングが必要だと感じる。一時預かり関連保育園の園長会を開催した際には委員からのご意見を伝え、面接予約の取り方など効率的に利用してもらえよう、検討したいと思う。

委 員 保育園の運営側としては、一時預かりの当日キャンセルや無断キャンセルによって定員の空きがでてしまう日が増えており、本当に必要とする人が利用できなくなることがある。最近は利用者マナーの悪化が目立っており、他の保護者と話す機会があれば、その点について伝えてほしい。

委 員 一時預かりの予約キャンセルが出たとき、キャンセル待ちの人へ案内するかどうかは保育園によって異なり、同じ対応でないのは分かりづらい。また、市の東部地区には一時預かりの実施園が多いが、西部地区の方が少なく、予約をとりにくい。西部でも利用可能な保育園を増やしてほしい。

- 事務局 キャンセルが出た場合の対応については、保育園の園長会でも話に出してみようと思う。当日や前日にキャンセルが分かった場合、保育園側での急な人員配置の見直しなどが必要となるため、キャンセル待ちへの対応を一律にすることは難しいのかもしれない。利用率については、西部地区の方が下がってきている。
- 委 員 一時預かりのキャンセル待ちの人へはファミリー・サポート・センターも案内すれば良いと思う。仕事がないという提供会員もいる。
- 事務局 利用希望時間などで、ファミリー・サポート・センターが合う場合には案内することになるだろうが、ファミリー・サポート・センター事業は1時間800円の利用料がかかること、利用の8割近くが保育施設の送迎と前後の預かりという短時間保育であることから、保育園での一時預かりのニーズとは若干異なると考えている。
- 委 員 13事業のうち7事業が確保方策を達成しているが、0～2歳の人口は実際には計画よりも多くなっており、計画策定時の人口推計によって定めた量の見込みと現状にはズレが生じているだろう。計画の数値を見直す予定はあるか。
- 事務局 見直しはしないが、見込みの数値にだけ沿っていけばよいとは考えておらず、現状を捉えて各事業が対応していくことが必要だろう。
- 事務局 就学前児童の人口に関しては、見込みと実際の人口は各年度で数十人程度の差で推移してきている。実際の数値が計画上の見込みと大きくかい離していれば見直すという基準があるが、現状はそこまで大きなかい離はない。
- 委 員 2年間で120人も赤ちゃんが生まれているのに、28年度から29年度ではそれほど就学前人口が増えていないのはなぜか。
- 事務局 人口流出入と自然増、両方の状況が数字に現われていると考えられる。
- 会 長 この事業計画は29年度に待機児童をゼロにするのが国の大きな目標ではあった。市町村レベルでも量の見込みの見直しは当然必要になってくるだろうが、個々の事業の量の見込みを達成することが目的というものではない。今後も、数値にとらわれず、取組みを充実させていくことをお願いしたい。
- 委 員 保育園で給食の量の問題などがニュースになることもあったが、小平市では保育の質は確保できているのだろうか。
- 事務局 保育園が増えているのと同時に、保育の質へ目を向けることも重要である。現在、公立保育園では外部機関による第三者評価を3年に一度実施している。今後、子ども・子育て支援法に基づいた指導検査が求められていくため、市としても指導検査を行おうと考えている。第三者機関と行政側のそれぞれの視点によるチェックを行っていく。

- 会 長 公立保育園は行政側が直接的に指導検査を行い、私立保育園は都道府県が指導検査を行っている。今後はその業務が都道府県から各市町村に委ねられ、市町村が主導権をもつことになり、量だけでなく質にも目を向けていくことになる。第三者評価だけでなく、各園が自己評価を行い公開していくことを求めることなどによって、より客観的な評価が可能になるようお願いしたい。
- 委 員 保育園も幼稚園も第三者評価が実施されているが、保育の質よりも、人員や書類といったものに対する審査である。国では幼児教育センターの設置に関する話が出ているが、小平市では設置を考えているか。
- 事務局 現時点では設置を考えていない。市町村側としては、特定教育保育施設を対象に検査を進めていきたいと考えている。保育サービスの質についても、注意を払いながら検査を実施していきたいと思う。
- 委 員 どこかの自治体で保育園の新設計画が出た際、地域住民からの反対が強く、新設を断念したという話を聞いたことがある。小平市では保育園を作るときに反対の声はあったか。小平市では地域住民は子育て支援に協力的なのだろうか。
- 事務局 住宅地の中に保育園を設置することが多いため、周囲から苦情が出たことはあった。その際には騒音や交通量の増加など1件1件の課題に対してどのように説明すればよいかを事業者と検討し、地域で説明を行ってきた。結果としては理解が得られ、全ての園を開設することができた。今後も地域からの理解を得ることを大切にしていく。
- 委 員 幼児期の教育・保育の2号認定に幼稚園のアットホーム事業利用者を含めているが、1号認定ではないのだろうか。従来型の幼稚園でアットホーム事業を利用した場合には認定の申請は必要がないと思うが、アットホーム事業を利用すれば2号認定に含まれるのか。
- 事務局 委員の言うとおり、アットホーム事業の利用においては2号認定の必要はない。計画策定時、アットホーム事業及び預かり保育は午前9時から午後2時までの幼稚園の教育時間の前後の時間帯に保育を実施することから、「2号認定的」な位置づけになるだろうと考え、取り扱いの上では2号認定に入れることとなった。
- 委 員 その場合、アットホーム事業と従来型の幼稚園で預かり保育を受けている場合とで、兄弟で受けられる補助金に差は出てくるのだろうか。
- 事務局 アットホーム事業の利用者は幼稚園に通園している利用者であるため、就園奨励費等の対象となる。

- 会 長 幼稚園そのものの位置づけによるもので、新制度に入って給付を受ける園か、従来の私学助成を受ける園かどうか、各園で調べるとよいだろう。
- 委 員 小児科のある病院で勤めているが、最近は外国人患者が増え、コミュニケーションをとれず困ることがある。乳児家庭全戸訪問事業で外国人の家庭を訪問した際、コミュニケーションをとるのに苦労したとき頼れるサービスなどはあるのだろうか。以前、モンゴル語しか分からない外国人が来院した際、予防接種の必要性を説明できず、困ったことがある。外国人は孤立しやすいため、外国語人通訳のいる病院リストを渡すなど、病院内での外国語対応のサポートを市として行ってほしい。
- 事務局 全戸訪問事業とは別の事業になるが、産前産後サポートのために通訳の予算を新たにとっている。面談で外国人の保護者とコミュニケーションがスムーズにできない場合は通訳が同席し、通訳を通じて支援の説明や相談対応を行っていくと考えている。
- 委 員 医師の立場での実感としても、様々な国からの外国人が増えている。外国人患者が日本語を少しでも分かる留学生と一緒に来院した際、留学生が通訳の役割を担ってくれてコミュニケーションがとれたことはある。小平には国際色のある大学もあり、留学生を通訳として活用できると思う。また、子どもの方が外国語に対応しやすく、保護者よりも早く日本語を習得できる場合もあるだろう。
- 委 員 保育園のパンフレットや入園案内などを5カ国語で出している自治体があるように、小平市でも多国語のパンフレットや案内を作成してほしい。
- 委 員 今後、保育園の新設は予定しているのか。それによって待機児童は解消される見通しなのだろうか。
- 事務局 現時点では小規模保育事業1園の開設のみを考えている。市の西部は人口減に転じていく状況で、人口増の花小金井駅周辺地区への対応を考えていくことになる。就学前人口が予想よりも突出して増加することはないだろうと予測しているが、計画策定時には決定していなかった大規模マンションでのニーズ把握が必要になるだろう。業者から情報を集めながら保育園や小規模保育事業で効率的に受け入れを行っていきたいと考えている。
- 委 員 転入者はそこまで増えていないのだろうか。人口増の原因としては、大規模マンションの新築による流入があるのだろうか。
- 事務局 人口増の要因は転入者が多いという点と自然増の両方が考えられるだろう。東部地区を中心として、大規模マンションが増えていることは流入を増やす原因の1つだと思う。保育園や子育て支援事業の充実によって小平市を選んでくれる人もいだろう。

- 委員 学童クラブは、保育園と同様に午後 7 時や 8 時まで延長しないのか。お迎えに行かないと 6 時までしか預けられないというのは大変。愛のチャイムが鳴るまでに迎えに行かなければいけないというのは働く母親にとっては難しい。親が迎えに行ける時間まで待つてほしい。
- 事務局 現在は指定管理者が運営している 7 か所のクラブで午後 7 時まで延長している。直営クラブで午後 7 時までの延長保育を行う場合には指導員を倍近く増やす必要があり、職員体制や財源などの点からも難しい。今後、学童クラブを新設して複数のクラブができる学校においては、指定管理者による管理運営で延長保育実施のクラブを確保したいと考えている。
- 事務局 愛のチャイムは目安であり、お迎えをお願いする場合は、お子さんによって異なり、一概にはいえない。必ずしも、お迎えに行かないと 6 時まで預かれないという訳ではない。
- 会長 子ども・子育て支援事業計画に関する貴重なご意見もいただき、「小平市子ども・子育て支援事業計画《平成 28 年度推進状況》」については了解を得られたものとした。利用者のニーズと現状を捉えながら、各事業を展開してほしい。

(2) 小平市子ども・若者計画の策定について

特になし

(3) 小規模保育事業の新設について

- 委員 小平市で既に開設している小規模保育事業のはぐみいと異なり、今回の新設園は土曜日も開園すると示されている。はぐみいと運営時間等が異なるのは、事業者の考え方によるのだろうか。
- 事務局 保護者のニーズを考えて事業者と協議した結果、土曜日の開設と延長保育の実施によって、より長い時間の保育サービスを提供できるようにした。運営する事業者ごとに体制が異なるように、施設間で差が生じてくる。
- 委員 連携予定園は調整中ということだが、人口流入などもあり、3 歳児から違う園に入るのは難しいように思える。幼稚園のアットホーム事業なども視野に入れて調整中なのだろうか。
- 事務局 現在のところ、近隣の幼稚園や認定こども園等と調整をしている。連携園には、卒園したときに希望すれば必ず入れるという受け入れ枠を確保してもらうことになる。

委 員 午後 7 時 15 分まで延長するのは素晴らしいが、卒園後の連携園もその時間まで延長していなければ、保護者の希望に合わないのではないと思うが、どのように考えているのだろうか。土曜日も開園するという点から幼稚園を連携園とするのは難しいだろう。花小金井周辺で連携施設を探すのであれば、保育園に限られるのではないか。

事務局 現在は小規模保育事業と受け入れ先の連携園の保育時間が異なるのはやむを得ないこととして捉えている。卒園後の連携予定園の延長時間へのニーズはとらえなければならないが、小規模保育事業に入園するときには保護者にその点をきちんと説明し、選択してもらうようにしたいと考えている。連携施設を考えるとときには、認可保育園など複数の連携施設の設置を想定する可能性もある。

会 長 それでは、「小規模保育事業の新設について」は了解を得られたものとしたい。

(4) その他

特になし